九八　金谷御殿年頭御禮着服之儀觸

金谷御殿御手狹にて指つかへ候に付、當分年頭御禮等長袴着用之儀可指止候。將又類燒之人々も多候間、旁以熨斗目も暫之內は指止、年寄中を初服紗小袖・半袴着用可仕候。

綿衣着用之儀は、勿論勝手次第之事。

一、於江戸表は、尤可爲前々之通事。

一、年寄中等并前田氏之人々、御寺方御名代相勤候節は、唯今迄之通熨斗目長袴着用之事。

但、御法事之節預玄院樣初御前樣方御代香相勤候人々、平士にても同前之事。

一、御法事之節、御寺詰人并拜禮人共、都て熨斗目長袴不及着用、服紗小袖・半袴着用之事。

但、綿衣着用之儀勝手次第之事。

一、公儀御法事之時分詰人裝束之儀は、只今迄之通にて可有之候。尙更其節に至可申渡事。

右之趣可被得其意候。以上。

（寶暦九年）八月二十三日　　長九郎左衛門

御城御普請被仰付、御殿出來に付、來正月元日頭分以上登城年頭御祝詞申上、夫より佳節・朔望等出仕之面々、最前之通登城可仕候。且又御射初を始御規式も、於二御丸可被仰付旨被仰出候事。

一、金谷御殿御手狹にて指つかへ候に付、當分年頭御禮等長袴着用之儀被指止、年寄中を始服紗小袖・半袴着用可仕旨、寶暦九年被仰出候得共、來年頭より登城茂仕候事旁、熨斗目着用仕、以後年頭御禮等長袴着用之儀も最前之通可被相心得候。乍然時節柄勝手難澁之儀に候得ば、類燒以後熨斗目拵不申面々も可有之候。其上來年頭迄最早日間も無之事候間、所持無之人々は、尤服紗小袖并綿衣勝手次第着用可仕旨被仰出候事。

右之趣可被得其意候。以上。

（寶暦十二年）十二月八日　　横山山城守

九九　春出銀上納期變更之儀觸

御家中之人々春出銀、前々三月晦日切上納之御格に候得ども、晦日限上納にては指支候趣も有之躰に付、是以後當分四月十日切上納可有之候事。

（明和二年）三月六日　　村井又兵衛